

“ドライバーに緊張感を持たせるための一声を”

～思い込み 油断・過信は 事故のもと～

本年度上半期中の対物事故発生件数は784件で、昨年度に比べ50件も増えています。

事故の形態を見ますと、

走行中、進路がそれ、電柱やガードレール接触

すれ違い時、商店の袖看板や庇に接触

左折中、民家の塀や門柱に接触

等、過信や油断による、プロらしくない事故が多発しています。

対物事故は、対人事故や重大事故へとつながりますので、運行管理に当たる皆さんは、ドライバーに緊張感を持たせるための“一声”を積極的に掛けていただき、全員が無事故で帰社できるよう、ご配慮をお願いします。

<対物事故防止の声掛け例>

運転に集中を

～運転中は、運転以外の事を考えたり、音楽等に夢中になるなど、他に気を奪われることなく、運転に集中しましょう。

車両構造上の危険の認識を

～トラックの高さ、幅、視界、右左折時の内輪差・外輪差、オーバーハング、荷物積載時と空車時のブレーキの差、制動距離等を認識して運転しましょう。

休憩は早めに

～あくびやまばたきの回数が増えたら疲れのサインです。早めに休憩しましょう。